

中心市街地活性化に、昭和40年頃のまちと公共交通歩いて暮らせるまちを

厚木市議会中心市街地活性化検討協議会の勉強会

- ・駅前大型店の撤退と再開発ビル商業床の空洞化
- ・商店街の後継者難と意欲の低下
- ・高校の郊外移転とバス路線のSC誘致
- ・連立体交差事業と駅の高架化・南北問題解消
- ・工場跡地への出店と隣接町でのSC誘致
- ・土地区画整理事業と公共・医療・福祉施設の郊外移転
- ・高校の郊外移転とバス路線のSC誘致

コンパクトシティに戻そう

講師は、内閣府「中心市街地活性化推進委員会」委員長など の政府委員や、全国の自治体で各種委員を務めています。コンパクトなまちづくりを推奨しています。

「コンパクトなまち」＝コンパクトシティと聞くと、何やら新しいまちづくりのように感じますが、講師によると、昭和40年ごろの地方都市がコンパクトシティだとのこと。駅の近くに大きな市街地があり、離れたところに徒歩圏内で生活ができる地域拠点（集落）があちこちにあります。

都市へ人が集まり居住地域が広がった。昭和35年から55年までの間に、都市的地域は2・6倍になつたが、人口は1・7倍。都市的地域の人口密度が低くなっています。

まちの破壊の要因

場当たり的な事業により、かつてのコンパクトシティが破壊され始めた。昭和35年から55年までに、都市的地域は2・6倍になつたが、人口は1・7倍。都市的地域の人口密度が低くなっています。

公共交通の充実を

誰もが快適に暮らせるまちであるためには、生活サービス（福祉・医療・商業等）が必要。車の無い人の生活が大変ではダメ。生活拠点は、歩いて暮らせるまちであること。

都市再生特別措置法が平成26年に改正され、市町村が立地適正化計画を策定することになった。

包括的なマスタープランの作成、都市機能誘導区域と居住誘導区域、さらに維持・充実を図る公共交通網を設定する。

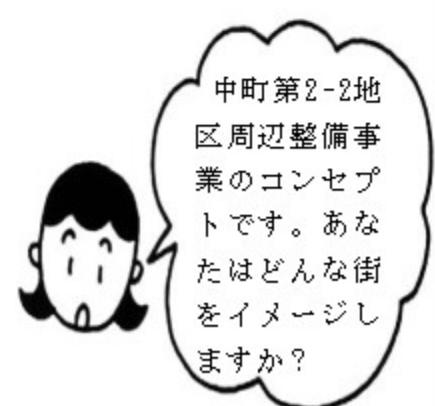
地域公共交通網には、コミュニティバス、乗換拠点の整備、循環型の公共交通ネットワークの形成、デマンド型乗合タクシー等がある。

中心市街地（大きな団子）と各生活拠点（小さな団子）を結ぶ公共交通（串）で、団子と串のまちづくりを進めよう。そこでコミュニティバスを運行する。これが多極ネットワーク型コンパクトシティだ。



2月 議会の予定

- | | |
|------------|---------------------------------------|
| 2月 22日 (月) | 本会議 |
| 23日 (火) | 本会議 |
| 29日 (月) | 本会議 (一般質問) |
| 3月 1日 (火) | 本会議 (一般質問) |
| 2日 (水) | 本会議 (一般質問) |
| 4日 (金) | 総務企画常任委員会 |
| 7日 (月) | 市民福祉常任委員会 |
| 8日 (火) | 環境教育常任委員会 |
| 9日 (水) | 都市経済常任委員会 |
| 10日 (木) | 常任委員会予備日 |
| 18日 (金) | 議会運営委・本会議
9時開会です。
ぜひ傍聴においでください。 |



中町第2-2地区周辺整備事業コンセプト サードプレイス 第3の居場所づくり

6つの整備方針

- 1 未来の図書機能・科学機能を核とした複合施設の新設
- 2 魅力ある民間機能の誘導
- 3 誰もが使いやすいバスセンター
- 4 アクセス性を高める自動車・自転車等駐車場
- 5 まちの利便性が高まる大型バススペース
- 6 訪れる人にやさしい歩行者空間

さて厚木のまちづくりはどうでしょうか。中心市街地が衰退していると、それが、イオンとバスセンター界隈（中町第2-1-2地区周辺整備事業）や本厚木駅南口駅前広場と22階建てのビル（本厚木駅南北地区第一種再開発事業）が気になります。市のホームページには計画の概要が載っています。みんなでまちづくりを考えましょう。